



兵庫教育大学大学院同窓会

NEWS LETTER

第7号

平成26年8月 大学院同窓会事務局発行

兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会 in山口

8月9日(土)・10日(日)、標記大会を「セントコア山口」において、「兵庫教育大学大学院で学んだ力を生かし広げよう」をテーマに開催しました。この大会は昭和57年2月の初回大会以来、毎年各地区支部の持ち回りで開催しているもので、今回は山口県が担当となり第34回目を数えました。折しも、台風11号が接近中ということで、大会の開催が危ぶまれましたが、進路が東にそれたため、開催が決定されました。山口県・山口市各教育委員会の後援事業としてそれぞれから来賓のご臨席を得、北は岩手県から南は宮崎県まで12府県の修了生・在学生と大学関係者など、合わせて100人の参加がありました。



石川大会実行委員長、渡邊副委員長をはじめ大会役員の方々の的確な判断により、また心配されていた天候も大会両日は何とか持ちこたえ、大会を無事終えることができました。山口支部が一丸となって、細かい配慮の行き届いた心温まる大会を創りあげていただきました。ありがとうございました。



まずはじめに、加治佐学長により、『教員養成改革と兵庫教育大学の役割』と題して、教員養成に関わる動向と、その中での兵庫教育大学の役割について特別講演が行われました。続いて、『萩教育の伝統～明倫小学校と萩西中学校の小中連携～』と題して、新川美水氏(生活・健康系6期)がご自身の体験をもとにした実践研究発表が行われました。藩校明倫館の伝統を踏まえながら、小中連携の中で「松陰読本」や「松陰先生のことば」の朗唱を取り入れた創意ある教育活動は示唆に富む内容でした。



続いて、『防長教育と松下村塾』と題して、松陰神社宮司の上田俊成氏による講演が行われました。激動の時代を生き抜いた思想家であり教育者である郷土の先覚者、吉田松陰先生の志の高さとまっすぐな生き方、そしてその人柄について、多くのエピソードを織り交ぜながらのお話しに、参加者は熱心に聞き入り深い感銘を与えられました。



同窓会の勝俣組織部長からは、ブロック活動・支部活動の活性化に向け中部・東海ブロックの熱のこもった活動報告が行われました。



研究大会の恒例となった「教育実践研究活動等に係る表彰」が行われました。大学院を修了後、優れた教育実践研究活動等を行い大学及び大学院同窓会の名誉を高めその発展に寄与された4人の同窓会員の方々に加治佐学長及び大橋会長から嬉野賞等の賞状並びに記念品が授与されました。

嬉野賞 2名：佐倉 義信（大阪府、言語系4期、連合大学院博士後期課程修了）

福山 逸雄（沖縄県、生徒指導1期）

※台風の影響により、急遽欠席

奨励賞 2名：成澤 真介（岡山県、障害児教育17期）

藤本 浩行（山口県、教育方法17期）



研究大会の最後に参加者全員で記念の集合写真を撮りました。

平成27年度は、震災復興に向けての教育と環境をテーマに、宮城県仙台市で8月1日（土）・2日（日）に開催することの予告と参加の誘いが宮城県支部を中心に北海道・東北ブロックをあげて行われました。悪天候にもかかわらず全国から集まり、今大会が成功裏に終わったことを祝い、仙台での再会を約束しました。



情報交換会では、銘酒に舌鼓を打ちながら、懐かしい学生生活を語り合い、旧交を温め合う姿があちらこちらで見受けられました。

2日目は萩方面への巡検に出ました。天候の影響で少しコース変更はありましたが、萩の東郊、松本川を越えた松陰神社への参拝を皮切りに、宝物殿至誠館、松下村塾、吉田松陰誕生地、明神池、旧萩藩校明倫館など、名所旧跡とともに吉田松陰先生の足跡をたどりながら、今なお歴史が色濃く息づく萩の町を巡りました。特に、松

陰神社上田宮司による松下村塾での講話は、歴史を肌で感じる貴重な体験となりました。

